



「心に伝える」 経験と教訓の伝承

今後の災害等に備えて残された記録を活かし、当時の状況を災害等の現場に居合わせなかった人の心に伝えることにより、「自分ならこう対処する」と発想し、いざという時に行動を起こせる人を増やすには、どのような取組が必要か考えます。

また、震災の記憶や教訓を国内外に発信し、後世に伝えることを目的とした地域の震災伝承施設等がネットワークで結ばれ、地域の活性化を目指す取組について、有識者をはじめ地域で活動する方々との意見交換を行います。

コーディネーター

佐藤 翔輔 氏 (東北大学災害科学国際研究所准教授)

パネリスト

鈴木 由美 氏 (Team Sendai)

佐藤 克美 氏 (気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館)

黒澤 健一 氏 (がんばろう!石巻の会)

佐竹 悦子 氏 (防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」)

井上 剛 氏 (やまもと語りべの会)

参加無料
一般公開

定員200名 先着順

[先着順] 事前申し込みが必要です。
申し込み方法は裏面をご覧ください。

世界防災フォーラム / 防災ダボス会議@仙台 2019(宮城県主催 一般市民向け公開セッション)

開催日時
令和元年 **11月10日(日)** 14:00~15:30

開催場所
仙台国際センター会議棟2階 大会議室 橋

アクセス
地下鉄東西線・国際センター駅より徒歩1分





コーディネーター



佐藤 翔輔氏 東北大学災害科学国際研究所 准教授

2011年4月東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター助教を経て2017年11月より現職。専門は災害伝承、災害情報、災害復興、津波避難、防災啓発など。2004年には、新潟県で発生した7.13新潟水害、中越地震を体験。東日本大震災の被災地では、現場での「実践的」な防災・減災・復興に関する研究に従事するほか、政府・宮城県内の自治体・NPOなどで、防災や震災伝承関係の委員をつとめている。

パネリスト



鈴木 由美氏 Team Sendai 発起人

2010年9月に発足した仙台市役所職員の自主的研究グループ「Team Sendai」発起人。東日本大震災の体験や教訓を後世に伝えるべく、「Team Sendai」の中に「仙台市職員からみた震災記録チーム」を結成し、公式な記録からこぼれ落ちてしまいがちな、震災対応に奮闘した職員のジレンマや教訓を後世に伝えるべく活動を始めた。これらの活動は、2017年より、常葉大学大学院、東北大学災害科学国際研究所、Team Sendaiの共同研究に発展し、2018年からは仙台市の事業に進展。この活動における仕掛け人兼プロデューサーとして、冊子、朗読、映像、災害対応シミュレーションゲーム「クロスロード」、本人語り、歌など、幅広いコンテンツを提供している。



佐藤 克美氏 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 館長

1968年生まれ。気仙沼市出身。1986年気仙沼市役所へ入庁。2011年3月から2016年3月まで東日本大震災に伴う気仙沼市の災害等廃棄物処理を担当。2016年4月熊本地震の際は、被災地である南阿蘇村に気仙沼市職員第1陣として派遣され、災害等廃棄物処理対応支援を行う。2017年4月廃棄物対策課課長補佐を経て2019年1月より現職。気仙沼市階上地区にあった気仙沼向洋高校では、4階建て校舎の4階部分まで津波が押し寄せた。当時校舎にいた約170人は高台へ、一部残った教職員などは屋上に避難し全員無事であった。旧校舎を震災当時の姿のまま残し、津波の恐ろしさを伝える伝承館には、本年3月10日の一般公開以降、世界各地から7万人を超える入場者が訪れている。



黒澤 健一氏 がんばろう！石巻の会 事務局長

宮城県石巻市出身・在住。東日本大震災から1ヶ月後の2011年4月11日、津波に負けたくない・地域の方々を励ましたいとの思いで、津波で流出した自宅兼店舗の跡地に「がんばろう！石巻」看板を設置。その後、犠牲となられた方々への追悼の思いが加わり、震災を伝える活動、追悼行事の開催に尽力。現在は3.11メモリアルネットワーク理事、NPO法人いしのまきNPOセンター 副代表理事、石巻伝承の会 理事、ラジオ石巻 石巻の未来を語ろうなんでも座談会進行役 企画運営、いしのまき信金経営塾 会長、株式会社黒沢配管工業 代表取締役、多目的スペースK-BOX運営等、石巻にて継続的に活動を展開している。



佐竹 悦子氏 防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」 会長

防災教育の市民団体ゆりあげかもめ会長（元名取市関上保育所所長）
1972年名取市役所入庁。東日本大震災発生時は流失した名取市関上保育所の所長として全員を無事に避難させた経験を持つ。退職後は宮城県中央子ども支援センター（子どものケア支援）コーディネーター（県内全域対象）などを経て2014年7月防災教育の市民団体ゆりあげかもめを発足、会長に就任。地域の中で、大切な命を守るための危機意識の確立を目指し、自治会・子ども会・親子で防災研修等を実施。2019年4月震災の体験・教訓を100年後に伝えるために「市民が伝えるなとりの311」立ち上げ。後継者の人材育成に取り組んでいる。



井上 剛氏 やまもと語りべの会

1957年生まれ。群馬県出身。東日本大震災では旧山元町立中浜小学校の校長として10mの大津波の直撃を受けた。2階建て校舎の屋上に児童・生徒・保護者・地域住民等を避難させ、辛うじて2階の天井まで達する津波を回避。全員無傷で生還した。中浜小の統合先である町内の坂元小学校として児童の心のケアを含め、学校と地域が一体となった復興への道筋を模索した。2018年3月に定年後、やまもと語りべの会に所属。「百聞は一見にしかず」として、内陸部の小中学生の被災地訪問、兵庫県が被災地にて実施する新任職員研修、被災地での徒歩による避難体験、高台と建物高所、避難丘などのリスクを体得する「体験型語りベガイド」に力を入れている。

申し込みはFAX(022-211-2493) 又は電子メールで申し込み下さい。締切：11/7(木)

お名前	居住地 (市区町村)	ご所属 (任意)

■電子メールによるお申し込み

件名に「世界防災フォーラム宮城県申込み」と明記ください。

①お名前 ②ご所属等を記載のうえ、下記アドレスまで

fukusuif1@pref.miyagi.lg.jp



※いただいた個人情報は、セッション受付以外の目的には使用しません。また申し込みへの返答は行いませんので、当日会場までお越し下さい。
[お問い合わせ] 宮城県震災復興・企画部震災復興推進課 (TEL.022-211-2443)